



Data 2023-2

監督: 香港ドキュメンタリー映画工
作者 (香港記録片工作者)

出演:

👁️👁️ みどころ

2019年11月に香港で起きた「理大囲城」とは一体ナニ？本作は、アジア屈指の名門校・香港理工大学が警察に封鎖され、要塞と化した緊迫の13日間。至近距離のカメラが捉えた、衝撃の籠城戦の記録！

そう聞くと、団塊世代の私は50年前の1969年に起きた安田講堂攻防戦と対比してしまうが、その異同は明確だ。緊迫の13日間の意味は？それが後世に残したメッセージは？私には、それが少し疑問だが・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■本作はフィクションではなく、ドキュメンタリー！■□■

フィクションで作った『少年たちの時代革命』（21年）に対し、本作はノンフィクション、つまりドキュメンタリーだ。本作はドキュメンタリー映画として史上初の香港映画評論学会最優秀映画賞を受賞したものの、他方では「暴徒礼賛映画」のレッテルを張られ、香港での上映は実現しなかった。

そして、本作については、監督として個人名を出すことに危険があったため、本作の監督は「香港ドキュメンタリー映画工作者」とされている。また、出演者も逮捕の危険性から防護マスクやモザイク処理で顔の表情は映し出さないようにされている。

■□■1969年の安田講堂攻防戦 VS 2019年の理大囲城■□■

「理大囲城」は2019年11月に起きたが、そこに至るまでのいくつかの前提事実を整理しておくと、次の通りだ。

- ① 2018年2月、台湾で起きた香港人殺人事件の容疑者が、事件発覚前に香港に帰国。当時の逃亡犯条例では、香港以外の中華人民共和国の地に容疑者を引き渡せないことから、殺人罪を適用できなかった。
- ② 2019年2月、香港政府保安局が突如、逃亡犯条例の改正を提案。

- ③同年6月9日、その抗議デモに103万の市民が参加。
- ④6月12日、審議が表明された立法会を包囲した市民に警察が催涙弾で応戦。
- ⑤6月15日、抗議する自殺者が発生。
- ⑥6月16日、200万人が参加する香港史上最大のデモに発展。
- ⑦10月1日、18歳のデモ参加者が警察官に銃撃され重体。
- ⑧11月8日、香港科技大生が警察との衝突で転落死。
- ⑨11月に13日間の理大囲城発生。

そんな理大囲城のことを知って、団塊世代の私が思い起こしたのは1969年1月に起きた東大安田講堂事件だ。これは、ベトナム戦争反対、日米安保条約改定反対という政治闘争と、授業料値上げ反対、大学の民主化を求める闘争が合体して1967年から起きた大学紛争（大学闘争）の最終局面での大事件だ。東大では1968年1月から医学部のインターン闘争が起こり、7月に結成された全学共闘会議（全共闘）を中心に安田講堂を占拠、バリケードを築いたため、翌1969年1月16日、ついに加藤一郎総長代行は機動隊によるバリケード撤去を要請。1月18、19日の2日間にわたる攻防戦の末、安田講堂は陥落した。

■警察はなぜ理大を封鎖？それが、よくわからん！■

東大の安田講堂の攻防戦は、前述のとおり、全共闘が安田講堂の占拠を続けたため、やむを得ず加藤一郎総長代行が機動隊によるバリケード撤去を要請したために発生したものだ。それに対して、香港理工大学は2019年11月に突如、圧倒的な武力を持つ警察によって包囲された。そのため、構内には、中高生を含むデモ参加者と学生が取り残され、逃亡犯条例改正反対デモで最多となる1377名の逮捕者を出した。しかし、警察は一体何のために、香港理工大学をそんなふうに完全封鎖したの？私にはそれがよくわからない。

しかも、公式ホームページによれば、警察の包囲網により、大学は完全に封鎖され、救援物資を運ぶことも、記者や救護班が入ることも許されなかったため、理大構内に残されたデモ隊は最後まで闘うか、それとも命がけで脱出するか、という究極の選択を迫られたそうだが、実は私にはそれもよくわからない。

安田講堂を占拠したのは全員が全共闘の活動家で、逮捕されることも覚悟の上での行動。しかし、たまたま封鎖時に理大の中にいた人々は単なるデモ参加者だから、彼らの中に「家に帰りたい」と願う人たちがいたのは当然だ。ところが本作では、「脱出するの命がけ」と描かれているが、それってホント？「たまたまデモに参加していただけだから、構内から出してくれ」と白旗を掲げて脱出を求めた場合、その人は、逮捕されたかもしれないが、その処分は軽微だったのでは？実は私にはそこら当たりがよくわからないわけだ。

■指導部なき闘いの末路は？評価は？■

安田講堂の攻防戦は、バリケード内に立てこもった全共闘の学生たちと機動隊との間に圧倒的な力の差があったから、2日間にわたる攻防戦の末、学生たちは結局全員逮捕され

てしまった。しかし、全共闘に結集する学生たちは、統一した指導部の指揮の下で闘っていた。

ところが、本作を観ていると、封鎖された理大構内で議論ばかりしている姿がやけに目立ってくる。その最大の理由は、構内にいる人々は、たまたまデモに参加していただけから、明確な一つの目標の下、そして統一された指導部の指揮の下に結集している人々ではないためだ。そのため、あるグループは封鎖を突破して脱出することを試みたり、あるグループは「断固抵抗！」と叫んだり、その意見のバラつきには驚くほかない。

そんなふうに考えていくと、本作のチラシには「アジア屈指の名門校・香港理工大学が警察に封鎖され、要塞と化した緊迫の13日間。至近距離のカメラが捉えた、衝撃の籠城戦の記録！」とセンセーショナルに書かれているが、理大囲城は後世に残る価値あるメッセージになったとは、私には思えない。そのため、私のその評価は低いが、さて・・・？

2023（令和5）年1月19日記